

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成29年9月)

### ～足元は気温要因等で好調も、先行きは内外情勢への不安が高まる～

- 景気ウォッチャー調査・9月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月ぶりに上昇した一方、先行き判断は2か月ぶりの低下となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、消費者の節約志向は依然として根強いものの、事前の残暑の予想とは異なり、気温が例年よりも低めに推移したことで、衣料品を中心とした秋物商材の販売増加につながった。また、インバウンドによる消費も、引き続き堅調に推移している。
- 先行きについては、年末に向けた消費の盛り上がり期待する声もあるものの、国内外の政情不安に対する懸念が高まっている。国内では、消費増税の判断を含めた衆議院選挙の行方が、先行きの不透明感を強めている。また、海外については、北朝鮮をめぐる地政学リスクが高まっており、その影響を警戒する声が多く業種で聞かれる。
- なお、インバウンドについては、全体として堅調な動きが予想されているものの、中国政府が日本への団体旅行を制限する動きをみせているほか、昨年末以降に免税売上の加速から1年が経ち、前年比の伸びが鈍化する可能性も指摘されている。これらに伴い、今後の訪日数、消費額の推移が注目される。

#### 「気温」関連のコメント(現状判断)

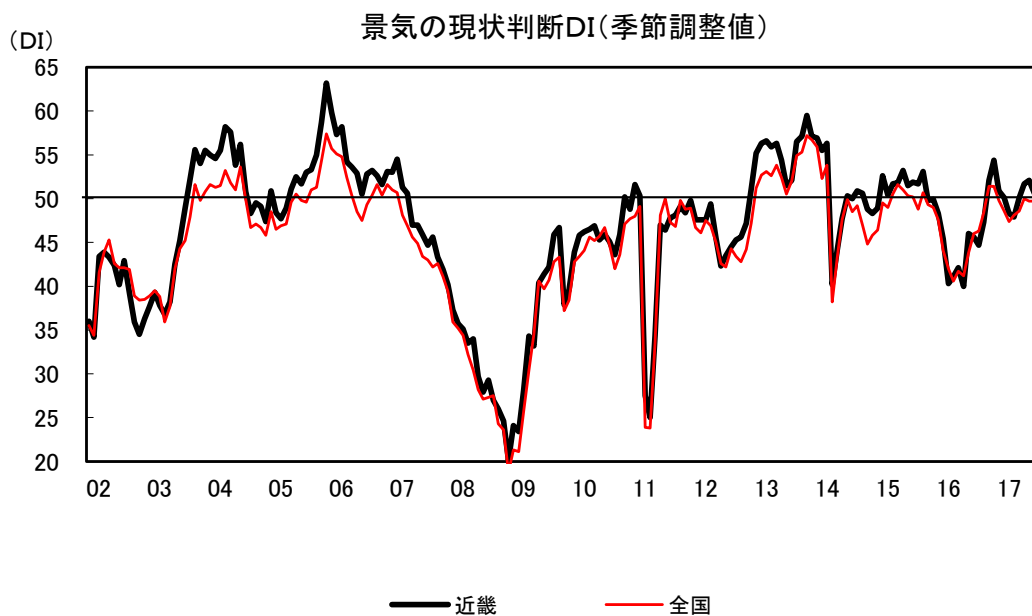
家計動向関連	良くなっている	百貨店(マネージャー)	・9月は売上が前年比で11%増、入店客数は4%増、買上客は3%増、平均単価は8%上昇と、好調に推移している。要因としては、前年に比べて雨が少なく、入店客数を下支えたほか、気温も最高、最低共に前年よりも低く、秋物商材の衣料品や家庭用品の動きが良かった。また、富裕層を中心に時計や高級ブランド品の購入単価が上がり、客単価の上昇につながっている。インバウンド売上も好調で、前年比で90%増とほぼ倍増の勢いである。
	やや良くなっている	百貨店(服飾品担当)	・高い気温の影響で不調となった前年に比べ、今年は初旬から気温が低下してきたため、9月商戦は都心店舗、郊外店舗共に好調に推移し、苦戦していた婦人衣料がほぼ前年を上回る売上となった。特に、先進性や話題性のある情報が発信できている売場は好調で、ファッション性の高い商材の動きが良かった。化粧品関係も依然として好調であり、大きく売上を伸ばしている。この勢いは当面続くと思われ、一般消費者の美容関連のニーズは、商品の広がりと共に拡大している。
		百貨店(売場マネージャー)	・前年の残暑に比べて比較的涼しく、秋物商材が好調である。婦人衣料は前年並みであるが、紳士衣料は前年を数%上回っている。高級ブランドや輸入化粧品は、引き続き2けた増を続けており、店全体の売上も前年を上回っている。
		百貨店(商品担当)	・インバウンド需要が依然として堅調で、化粧品や特選雑貨、時計、子供服などが全体をけん引している。また、気温の低下で衣料品も動いている。
		百貨店(販促担当)	・ファッション衣料は不振が続いているが、雑貨、食品が堅調に動き、前年を上回る推移となっている。気温も順調に低下し、慎重さはあるものの、消費意欲は感じられる。
		スーパー(企画担当)	・残暑もなく、秋冬物の季節商材の動きが前年よりも早くなっている。
変わらない	一般小売店[時計](経営者)	・少し気候が穏やかになった影響か、客が若干戻ってきた。ただし、販売量は少なく、夏の暑さで傷んだバンドの交換が目立った程度であった。平均単価は低いため、売上はあまり良くなかったが、来客数が少し増えたことが救いである。	
	百貨店(売場主任)	・今月の売上は、目標及び前年実績を共に上回る見込みである。引き続きインバウンドが好調であり、好調な商品には変化がないものの、例年と比較して気温が低いいため、秋物の実需商材も好調に推移している。ただし、商品全般が好調というわけではないほか、実需商材が好調である点をもみても、客が積極的に商品を購入している状況ではない。	

家計動向関連	変わらない	百貨店（売場主任）	・気温が低めに推移したことで、低迷していた衣料品に動きが出て、一時的に売上が回復している。ただし、景気が回復して、継続的に売上が向上しているわけではない。
		スーパー（経理担当）	・例年以上に気温の低下が早く、秋冬商材の動きが早まっている。元々売場は季節を先取りすることが多いため、足元は堅調な動きとなっている。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・ハンドバッグや婦人靴といった雑貨関連の売上は堅調に推移した。主力の婦人服については、気温の低下とともに持ち直しの兆しがみられるものの、動きは鈍い。
		タクシー運転手	・夏休みが終わって通常の生活に戻り、日曜日以外は、子供を連れて出かけることが少なくなっている。ただし、気温も下がってきているため、少しずつ利用は増加する。
	なっている	やや悪く	コンビニ（店員）
		家電量販店（人事担当）	・夏の暑さが和らいで、過ごしやすい季節になったことで、売上がけん引する商品も無くなっている。

### 「北朝鮮・世界情勢」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・一部の超優良顧客による宝飾品や美術品の購入は、より多くなると同時に、高額化が進む。衆議院選挙や海外情勢による影響は、今のところ考えられない。
		百貨店（マネージャー）	・北朝鮮情勢がどのように展開するかが不透明なほか、国内では来月に衆議院選挙が行われる見通しである。来月は様子見の姿勢が予想されるが、それ以降は読めない状況である。
		旅行代理店（役員）	・北朝鮮のミサイル問題の先行きが不透明であるものの、状況に慣れてきたこともあり、年末年始は旅行需要が伸びる。
	変わらない	一般小売店〔家具〕（経営者）	・世界情勢がどのように変化するかによって、大きく影響を受ける。
		百貨店（サービス担当）	・年内は傾向に変化はないと思われる。海外情勢や衆議院選挙などの不安定要素が懸念材料であるものの、創業記念催事などの強化により、前年実績を確保できる見通しである。
		百貨店（マネージャー）	・米国や北朝鮮問題、国内の政情が混とんとするなか、消費税増税の問題がにわか浮上したことで、各世代での貯蓄志向や、消費の縮小傾向が更に進むと思われる。また、11月以降は中国を中心としたインバウンド需要も一巡し、全体的には停滞気味となる。
		百貨店（売場マネージャー）	・衆議院選挙や北朝鮮問題、中国人旅行者の当局による規制など、先行きがどうなるかは読みにくい。野党連合の影響で、消費税増税問題などの経済政策も争点となり、より効果のある施策が提案、実施されることを期待している。
		百貨店（宣伝担当）	・国内の富裕客の購買は、引き続き旺盛であるが、残暑が続いており、婦人服や紳士服の季節商材の動きが鈍い。また、米国や北朝鮮の情勢によっては、外国人旅行者が減少するため、インバウンド売上への影響が心配される。
		家電量販店（企画担当）	・国際情勢や衆議院選挙の結果のほか、新党の今後が目される。また、使途の変更を表明することで、いよいよ消費税率を10%に上げる可能性が高まったため、しばらくは様子見の動きが続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・国際情勢や政治の不透明感はあるものの、市場は落ち着いていると感じる。
		都市型ホテル（支配人）	・北朝鮮情勢や政局などの不安定要素があり、今後の景気は読みにくい。
		都市型ホテル（管理担当）	・今月並みの好調が続くと思われるが、北朝鮮のミサイル問題の影響がどう出るか、また中国による訪日団体旅行の制限による影響が不透明である。
	旅行代理店（支店長）	・北朝鮮と米国間の問題は解決のめどが立っておらず、好転する材料がない。お客様は、今旅行に行かなくてもよいといった考え方であるため、状況は大きく変わらない。	
	通信会社（経営者）	・北朝鮮問題、衆議院選挙の動向次第となる。	
	やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・中間層の慎重な購買動向が続きそうなほか、前年の12月から免税売上が好調となった、インバウンド売上の伸び率の低下が予測される。また、北朝鮮問題による株価、為替の変動も、景気に対するリスクと考えられる。
百貨店（販売推進担当）		・前年の冬から固定客化が進んで、買上金額も上がっているため、ここへきて更に前年を上回る傾向になるとは思えない。固定客向けの販促もやり尽くした感があり、販促で売上げを押し上げることが困難になっている。また、北朝鮮問題などで景気が下振れしている感も否めない。	
住宅販売会社（経営者）		・衆議院選挙のほか、北朝鮮の動向が不透明であるなど、多少の不安材料がある。	
悪くなる	観光型旅館（管理担当）	・北朝鮮問題に対する日本、米国の対応と、中国、ロシアの温度差、米軍の北朝鮮への挑発とも取れる行動など、国際情勢の先行きが不透明である。また、国有地売却関連や獣医学部新設問題をうやむやにするような衆議院選挙など、国民の方を向いていない政府への不信感も増している。いずれにしても、好景気に結びつく要素は見当たらない。	
企業関連	変わらない	電気機械器具製造業（経営者）	・世界の政治、経済情勢が混とんとしているため、日本での生産の動きはやや良くなる。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・北朝鮮問題や衆議院選挙など、まずは国内外の政治情勢が落ち着かなければ、景気回復に本腰を入れられない。当面は今のような一進一退の状況が続く。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・北朝鮮問題は予断を許さない状況にあるが、関西の景気自体に影響が感じられるかといえば、まだ実感はない。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 15				16				17				
		月 9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
現状判断	近畿	51.7	53.1	49.8	49.9	48.3	45.4	40.3	41.1	42.1	40.0	46.0	45.6	44.7
	(全国)	48.8	50.7	49.3	49.0	47.6	44.1	42.0	40.6	41.7	41.2	43.8	46.0	46.3
先行き判断	近畿	50.2	51.1	48.9	48.8	47.2	47.0	46.1	46.2	46.7	41.1	47.0	48.4	49.4
	(全国)	50.1	50.7	50.5	50.0	49.1	46.4	45.7	43.7	45.4	40.5	46.9	48.6	49.4